

科目名	日本語教育方法論特講	担当者	ノダ 野田 ヒサシ 尚史	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>日本語教育ではさまざまな教科書・教材が使われているが、一般的には新しいものほど学習者のコミュニケーション能力を高めるための工夫が行われていると言える。しかし、日本語教科書・教材で扱われている内容は、学習者にとって必要なものになっていない部分が多に残っている。</p> <p>本講座では、従来の日本語教科書・教材を批判的に検討し、今後どのような部分をどう改善していけばよいかを検討できるようにする。その際、日本語学習者がどのように日本語を使ったり解釈したりしているかという実態を踏まえらるるようにする。</p> <p>こうした能力の修得（一般目標(GIO)）により、論理的・批判的思考能力を中心に、問題発見・解決能力、挑戦力、コミュニケーション能力、自己分析能力を身につけることを目的とする</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>日本語教育の従来の方法を理解した上で、今後それをどう改善していけばよいかを検討し、提案する能力を獲得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の日本語教科書・教材がどのように作られているのかを説明することができる。 ・従来の日本語教科書・教材の問題点を見つけ、説明することができる。 ・日本語学習者の日本語の使用や解釈の実態を分析することができる。 ・日本語教科書・教材をどう改善していけばよいかを検討し、提案することができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・manaba folio の掲示板を利用して、受講者どうしの共同学習を行う。 ・図書館やインターネットを活用して、資料を収集する。 ・日本語教科書・教材の分析や、学習者コーパスを使った学習者の日本語の分析を行い、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>(自習) 教材と関連文献を熟読する。</p> <p>(自主研究) 教材と関連文献を参考に、それに関連する具体例を自主的に集めたり考えたりする。また、日本語教科書・教材の分析や学習者コーパスを使った学習者の日本語の分析を自主的に行う。(レポート作成) 自主研究の結果をもとに、レポートを作成する。</p> <p>(ディベート) 掲示板を利用して、他の受講者とディスカッションやピア・レスポンスを行う。</p> <p>学修時間は、レポート1課題につき、準備から完成までに次の時間を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の学修：15 時間 ・事例の分析とレポートの執筆：20 時間 ・レポートの初稿の推敲と最終稿の完成（教員の添削指導への対応、ピア・レスポンスを含む）：10 時間 		
スケジュール	<p><前期></p> <p>レポート課題1 初稿締切：6月末 最終稿締切：前期締切日</p> <p>レポート課題2 初稿締切：8月末 最終稿締切：前期締切日</p> <p><後期></p> <p>レポート課題1 初稿締切：10月末 最終稿締切：後期締切日</p> <p>レポート課題2 初稿締切：12月末 最終稿締切：後期締切日</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	<ul style="list-style-type: none"> ・論旨の明確さ、独創性、具体性、引用を含む文章表現の妥当性など ・前期レポート課題1・2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 ・後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導・ピア・レスポンスは通常どおり行う。
	観察記録	20 %	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応など
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、初稿から最終稿に至るまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成へと、段階的に進める。 ・ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わりしだい、進める。 ・レポートでは、引用の方法や参考文献の明示などのルールを遵守すること。無断引用など、研究倫理上の問題があった場合は不正行為と見なされ、失格となる。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 野田尚史(編) 教材名： 『コミュニケーションのための日本語教育文法』(くろしお出版, 2005) ISBN: 978-4-87424-334-3 2,400円+税
	本書は、日本語を母語としない人々に対する日本語教育の土台になっている「日本語教育文法」をコミュニケーションに役立つものにする提案を行っているものである。従来の日本語教科書・教材を批判的に検討し、具体的な問題点を指摘し、今後の進むべき方向を示している。
参考図書	新屋映子・姫野伴子・守屋三千代『日本語教科書の落とし穴』(アルク, 1999) ISBN: 978-4-75740-156-3 1,900円+税 森篤嗣・庵功雄(編)『日本語教育文法のための多様なアプローチ』(ひつじ書房, 2011) ISBN: 978-4-89476-569-6 3,400円+税 山内博之『プロフィシエンシーから見た日本語教育文法』(ひつじ書房, 2009) ISBN: 978-4-89476-388-3 2,200円+税 野田尚史(編)『日本語教育のためのコミュニケーション研究』(くろしお出版, 2012) ISBN: 978-4-87424-555-2 2,400円+税
履修上のポイント	さまざまな日本語教科書・教材があるが、特に初級教科書・教材での文法事項の扱いほどの教科書・教材でも大きな違いはない。しかし、それでよいと考えないで、実際に学習者に役に立つかどうかという観点から批判的に検討してほしい。また、最近の中級・上級の教科書・教材にはこれまでなかったような新しいタイプのものがある。そのような教科書・教材のよい点にも目を向けてほしい。
レポート課題 1	教材の中で自分の関心がある論文を選び、その内容に関連する具体例を挙げながら、発展的に論じる。(3000字～5000字程度) 留意点: 具体例は日本語教科書・教材に載っているものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。
レポート課題 2	特定の日本語教科書・教材を分析し、「文法事項の提出順序」「扱われているが不要ないと考えられる文法事項」「扱われていないが必要だと考えられる文法事項」「文法事項の説明や練習問題の問題点」などの中から、自分の関心がある問題を具体例を挙げながら論じる。(3000字～5000字程度) 留意点: 具体例は日本語教科書・教材に載っているものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 野田尚史・迫田久美子(編) 教材名： 『学習者コーパスと日本語教育研究』(くろしお出版, 2019) ISBN: 978-4-87424-800-3 2,700円+税
	本書は、日本語学習者の言語データを集めたコーパスをどのように拡充させていけばよいか、また、すでにできているコーパスをどのように活用して日本語教育研究を行えばよいかを論じているものである。
参考図書	迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬(編)『日本語学習者コーパス I-JAS 入門—研究・教育にどう使うか—』(くろしお出版, 2020) ISBN: 978-4-87424-825-6 2,70円+税 金澤裕之(編)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』(ひつじ書房, 2014) ISBN: 978-4-89476-698-3 6,500円+税 森篤嗣(編)『コーパスで学ぶ日本語学 日本語教育への応用』(朝倉書店, 2018) ISBN: 978-4-254-51655-5 2,400円+税 野田尚史(編)『日本語学習者の読解過程』(ココ出版, 2020) ISBN: 978-4-86676-021-6 3,600円+税
履修上のポイント	日本語のコーパスにはさまざまなものがあるが、特に日本語学習者の日本語を集めた学習者コーパスを使って、日本語学習者の実態を観察し、分析してほしい。どのような日本語教育を行うのがよいかを考えるためには、学習者の実態を知ることが重要だからである。
レポート課題 1	教材の中で自分の関心がある論文を選び、その内容に関連する具体例を挙げながら、発展的に論じる。(3000字～5000字程度) 留意点: 具体例は、コーパスで見つけたものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。
レポート課題 2	教材の各論文を参考にしながら、自分の関心がある事項(たとえば、学習者の「ほうがいい」の使い方、学習者の読解における辞書使用など)について学習者コーパスを検索したり観察したりした上で、その事項について具体例を挙げながら論じる。(3000字～5000字程度) 留意点: 具体例は、コーパスで見つけたものや自分が実際に見聞きしたものが望ましい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の冒頭論文「コミュニケーションのための日本語教育文法的设计図」
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の「第 1 部」の 4 論文
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の「第 2 部」の 5 論文
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	日本語教科書・教材の分析：文法事項の提出順序の検討
第 9 回	日本語教科書・教材の分析：扱われているが不必要と考えられる文法事項の検討
第 10 回	日本語教科書・教材の分析：扱われていないが必要だと考えられる文法事項の検討
第 11 回	日本語教科書・教材の分析：文法事項の説明や練習問題の検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の「第 1 部」と「第 2 部」の 5 論文
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の「第 3 部」と「第 4 部」の 4 論文
第 3 回	複数の学習者コーパスの試用
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	学習者コーパスの分析：分析するコーパスの決定とそのコーパスの特徴・使い方の把握
第 9 回	学習者コーパスの分析：分析事項の決定とコーパスでの検索・観察
第 10 回	学習者コーパスの分析：検索・観察結果の検討
第 11 回	学習者コーパスの分析：分析結果のまとめ
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成